

令和2年度

屋久島世界自然遺産地域における森林生態系に関するモニタリング調査等計画

【調査内容】

- 1 屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査
- 2 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討
- 3 天然スギ林の現状把握
- 4 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

(1) 屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

過去調査 (H17,22,27) と比較・分析し、動態予測を行い評価する。

- 標高 0m~1400m 高塚山山頂付近
- 標高別定点プロット調査 (10 地点) 66 プロット
- 下層植生調査、群落配分図・群落横断図の作成

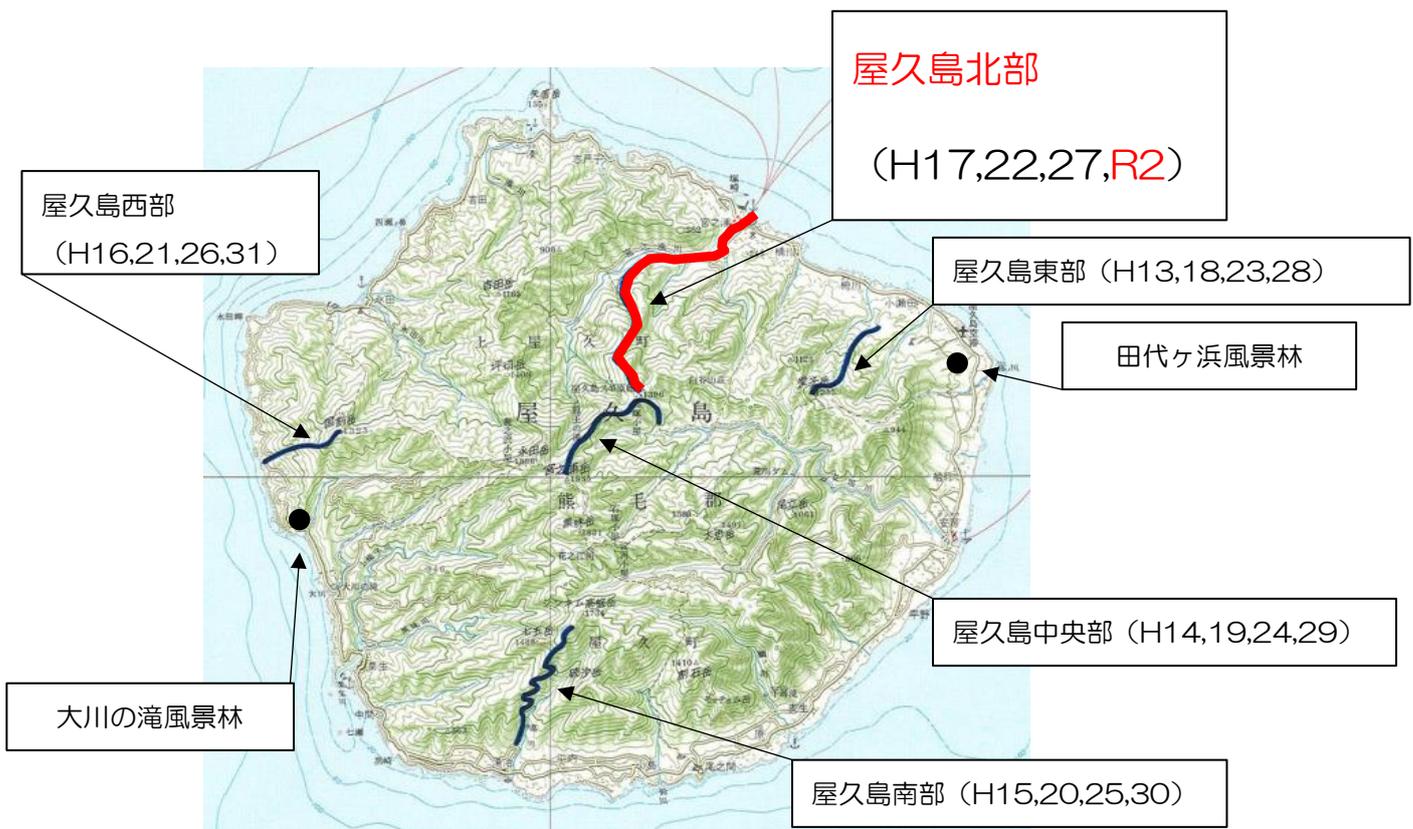


図 1-1 屋久島北部地域の植生垂直分布調査箇所

(2) 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討
別紙参照

(3) 天然スギ林の現状把握

屋久島に生育する天然スギは、世界自然遺産地域の重要な構成要素として位置づけられている。

令和2年度も10年前と同様に調査を行い、天然スギの本数密度分布図を作成し、過去の調査結果と比較して動態予測を行い、評価する。調査は10年前と同じ調査地点で行い、データの信頼性等を高めるために必要とされる場合は、調査プロットの区域を拡大、追加した上で行う。

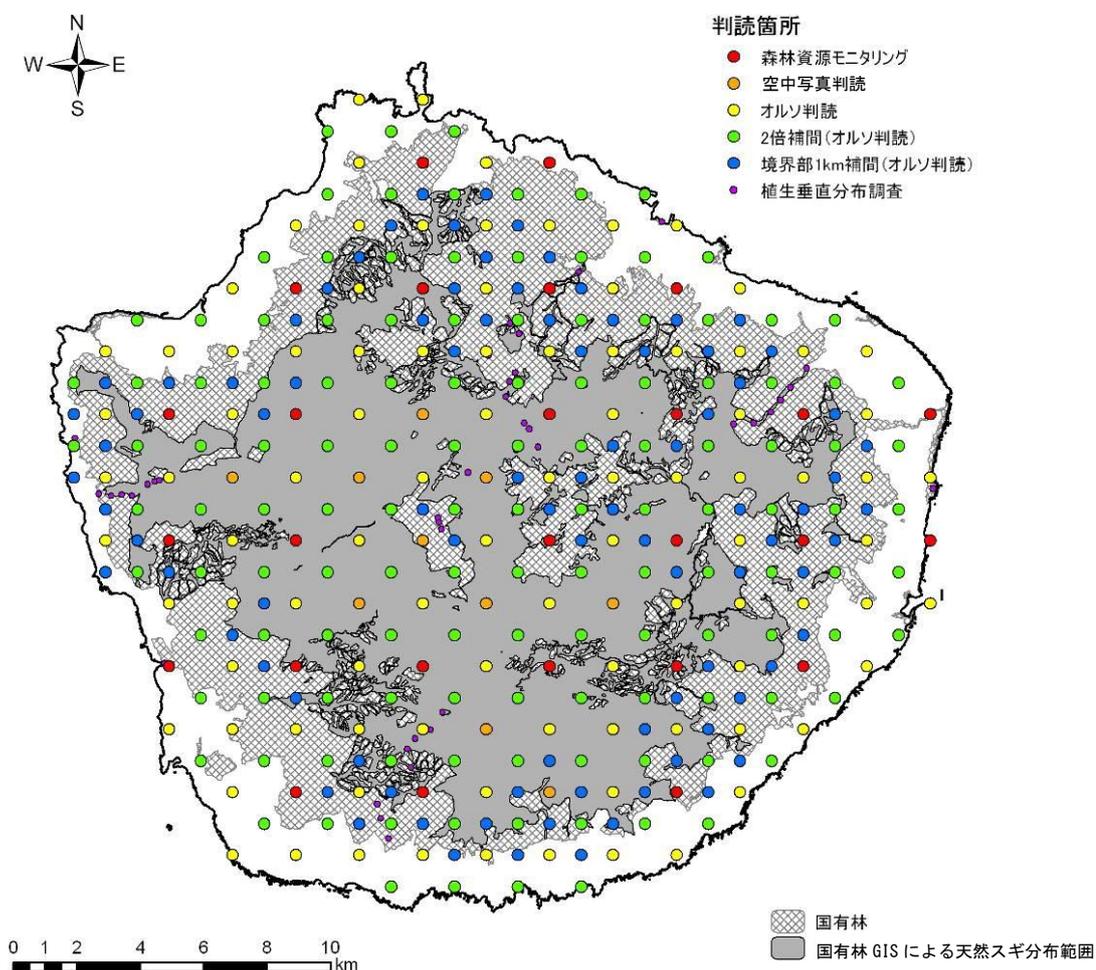


図 1-2 天然スギ林のサンプリング箇所

出典：平成 22 年度屋久島世界遺産地域等における天然スギ等森林生態系に関するモニタリング調査及び同計画の作成等に係る業務報告書（林野庁九州森林管理局）

(4) 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

気候変動による屋久島世界自然遺産地域への影響について、各機関のモニタリングデータの収集、気象庁アメダスによる気候変動等のデータの収集・分析等を行い、動態予測及び脆弱性の評価をする。また、各機関では観測されていない積雪深については、黒味岳において引続き自動撮影カメラを設置し、観測を実施する。

データ収集先の気象観測地点の位置は図 1-3 に示すとおりである。



図 1-3 各機関のデータ観測位置及び現地調査位置（黒味岳）